

# セルトラリン錠 25mg 「TCK」の生物学的同等性試験

—バイオアベイラビリティの比較—

辰巳化学株式会社

## はじめに

塩酸セルトラリンは、セロトニン輸送体を遮断することにより再取り込を阻害し、その結果セロトニン作動性神経伝達を促進する選択的セロトニン再取り込阻害剤である。

今回、セルトラリン錠 25mg 「TCK」とジェイゾロフト®錠 25mg の生物学的同等性を検討するため、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」<sup>1)</sup> (以下、「同等性試験ガイドライン」という) に従い、日本人健康成人男子を対象として、絶食時に経口投与し、血漿中のセルトラリンの濃度推移から両製剤のバイオアベイラビリティを比較した。

## I. 試験方法

### 1. 治験薬

試験製剤としてセルトラリン錠 25mg 「TCK」(辰巳化学株式会社) (以下、「試験製剤」という) を、標準製剤としてジェイゾロフト®錠 25mg (ファイザー株式会社) (以下、「標準製剤」という) を用いた。

### 2. 被験者

健康な成人男子志望者の中から、事前の健康診断および臨床検査において臨床的に問題がないと判断された20名を被験者とした。被験者の年齢およびBMIをTable 1に示した。

### 3. 実験計画

投与スケジュールをTable 1に示した。試験は2群2期のラテン方格法により行い、休薬期間は7日間とした。また被験者20名は10名ずつの2群に無作為に割り付けた。

### 4. 投与方法および投与量

投与スケジュールに従い、各製剤とも1錠(塩酸セルトラリン 25 mg) を水 150 mL と共に服用した。なお投与前10時間以上は絶食とした。

### 5. 血液試料採取方法

血漿中薬物濃度測定用の採血は、投与前、投与後2、4、5、6、7、8、9、10、12、24、36、48、60および80時間の計15回行った。採血については、10 mL をヘパリンナトリウム加真空採血管を用いて採血し、冷却遠心分離により得られた血漿を分取し、測定まで $-20^{\circ}\text{C}$ 以下で凍結保存した。

### 6. 血漿中濃度測定対象物および測定方法

セルトラリンを測定対象としてLC/MS/MS法により測定した。

### 7. データ解析

生物学的同等性を検討する比較項目として、 $\text{AUC}_t$ お

よび $\text{C}_{\text{max}}$ を用いた。 $\text{AUC}_t$ は台形法により、 $\text{C}_{\text{max}}$ は血漿中セルトラリン濃度の最高実測値とし算出した。

統計解析は、同等性試験ガイドラインおよび文献<sup>2)~4)</sup>の方法に準じて行った。

$\text{AUC}_t$ および $\text{C}_{\text{max}}$ の試験製剤と標準製剤の対数値の平均値の差の90%信頼区間が $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲にあるとき、試験製剤と標準製剤は生物学的に同等であると判定した。

Table 1 投与スケジュール

被験者	年齢 (歳)	BMI	投与スケジュール		
			I 期	休薬期間	II 期
1	30	20.5	試験 製剤  1 錠	7 日 間	標準 製剤  1 錠
2	25	19.3			
3	40	23.1			
4	35	24.3			
5	40	22.3			
6	25	22.4			
7	30	21.9			
8	28	24.5			
9	26	19.5			
10	26	20.0			
11	26	20.4	標準 製剤  1 錠	7 日 間	試験 製剤  1 錠
12	26	22.9			
13	28	20.0			
14	27	20.4			
15	29	22.6			
16	26	20.9			
17	35	21.1			
18	30	19.3			
19	29	23.8			
20	34	23.6			

## II. 結果

### 1. 薬物濃度および薬物動態

試験製剤と標準製剤投与後の平均血漿中濃度の時間的推移をFig 1およびTable 2に、各被験者における血漿中濃度推移をFig 2およびFig 3に、薬物動態パラメータについてはTable 3に示した。

両製剤とも投与後血漿中セルトラリン濃度が上昇し、試験製剤で $5.2 \pm 0.8$ 時間、標準製剤で $5.4 \pm 0.8$ 時間に $\text{T}_{\text{max}}$ に達した。また、 $\text{C}_{\text{max}}$ は試験製剤で $7.56 \pm 2.89$  ng/mL、標準製剤で $7.44 \pm 3.45$  ng/mLであった。 $\text{AUC}_t$ は試験製剤で $181.94 \pm 79.76$  ng·hr/mL、標準製剤で $178.82 \pm 89.24$  ng·hr/mLであった。

### 2. バイオアベイラビリティの比較

試験製剤および標準製剤の薬物動態パラメータにお

ける分散分析の結果を Table 4 に示した。また、得られた  $AUC_t$  および  $C_{max}$  について試験製剤と標準製剤の対数値の平均値の差の 90%信頼区間を Table 5 に示した。

試験製剤と標準製剤の対数値の平均値の差の 90%信頼区間は、 $AUC_t$  では  $\log(0.98) \sim \log(1.12)$ 、 $C_{max}$  では  $\log(0.94) \sim \log(1.17)$  であり、いずれも同等性試験ガイドラインで要求される  $\log(0.80) \sim \log(1.25)$  の範囲内であった。

### 3. 安全性

本治験において標準製剤を投与された 20 例中 1 例に治験薬との因果関係が否定できないと判断された有害事象が 1 件認められた。

また、死亡、その他の重篤な有害事象が認められなかつたことから、安全性に問題はないと判断された。

### III. 考察

健康成人男子 20 名を対象とし、セルトラリン錠 25mg 「TCK」とジェイゾロフト®錠 25mg を 2 剤 2 期のクロスオーバー法で経口投与し、経時的な血漿中濃度から求めた  $AUC_t$  および  $C_{max}$  について両製剤のバイオアベイラビリティを比較し、生物学的同等性を検証した。

$AUC_t$  および  $C_{max}$  の試験製剤と標準製剤の平均値の差の 90%信頼区間は、同等性試験ガイドラインにて規定されている  $\log(0.80) \sim \log(1.25)$  の範囲内であったことより、両製剤は生物学的に同等であると判断した。

Fig 1 平均血漿中濃度推移

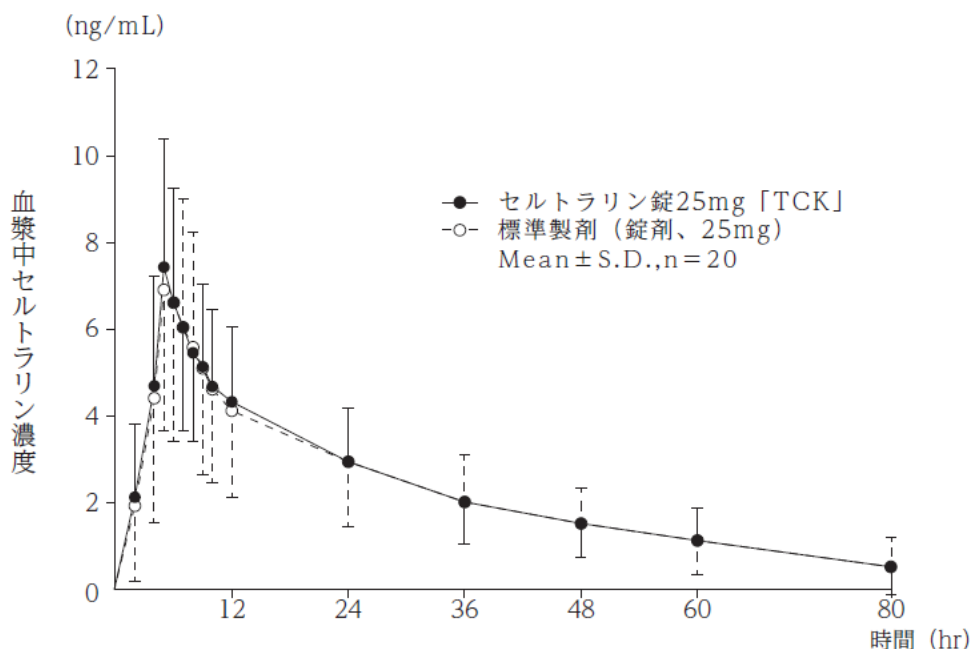


Table 2 セルトラリン錠 25mg 「TCK」 および標準製剤の平均血漿中濃度

薬剤名		血漿中濃度 (ng/mL)									
		2	4	5	6	7	8	9	10	12	24
セルトラリン錠 25mg 「TCK」	平均値	2.145	4.705	7.460	6.642	6.047	5.476	5.153	4.661	4.345	2.991
	±S.D.	1.667	2.543	2.945	2.646	2.393	2.046	1.896	1.818	1.729	1.219
標準製剤 (錠剤、25mg)	平均値	1.944	4.417	6.905	6.637	6.066	5.607	5.118	4.630	4.141	2.942
	±S.D.	1.744	2.851	3.228	3.193	2.984	2.653	2.447	2.160	1.998	1.459

血漿中濃度 (ng/mL)			
36	48	60	80
2.016	1.537	1.142	0.561
0.960	0.791	0.764	0.663
2.034	1.541	1.135	0.567
1.070	0.813	0.771	0.634

(n=20)

Fig 2 各被験者における血漿中濃度推移（試験製剤先行群）

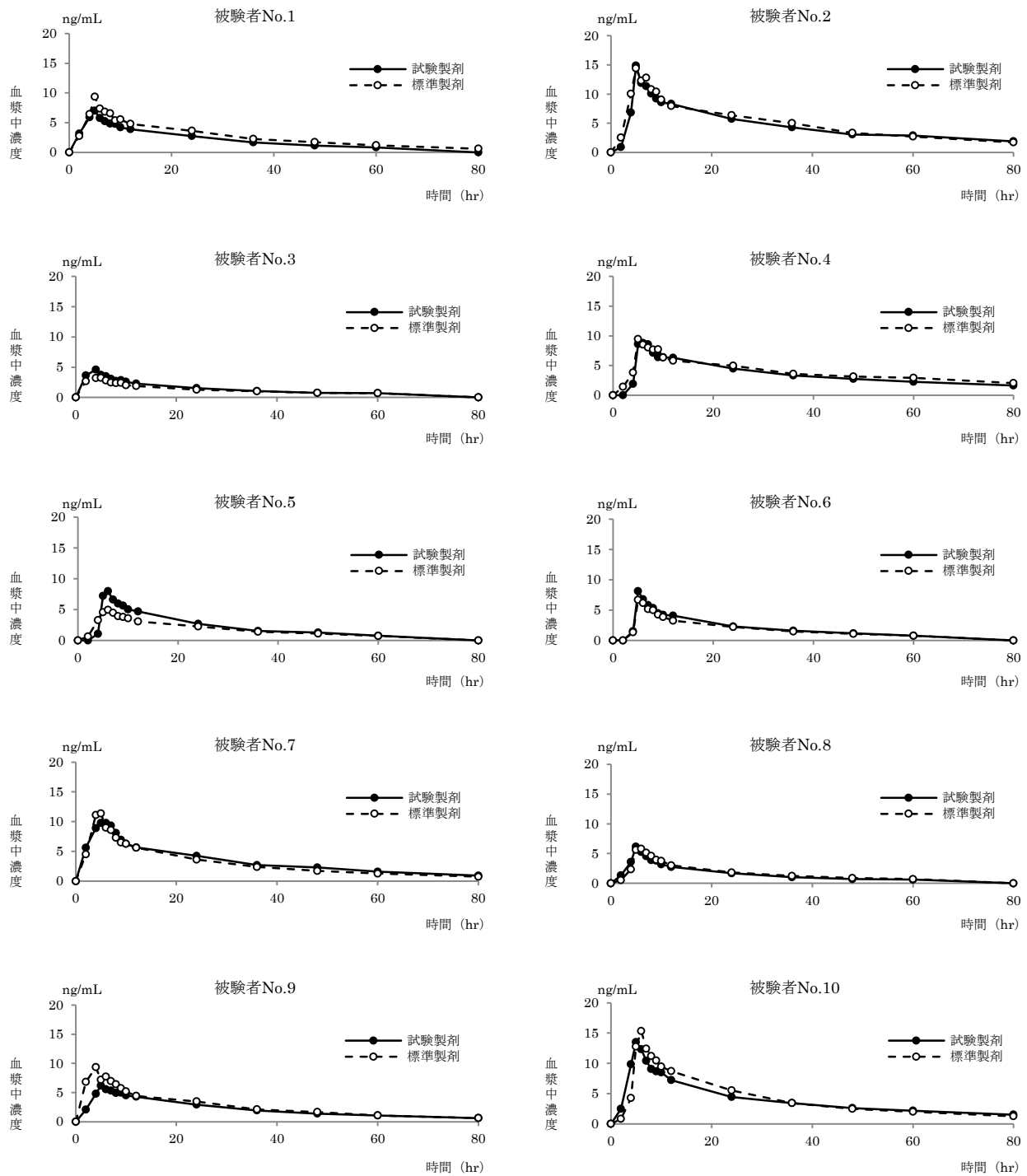


Fig 3 各被験者における血漿中濃度推移（標準製剤先行群）

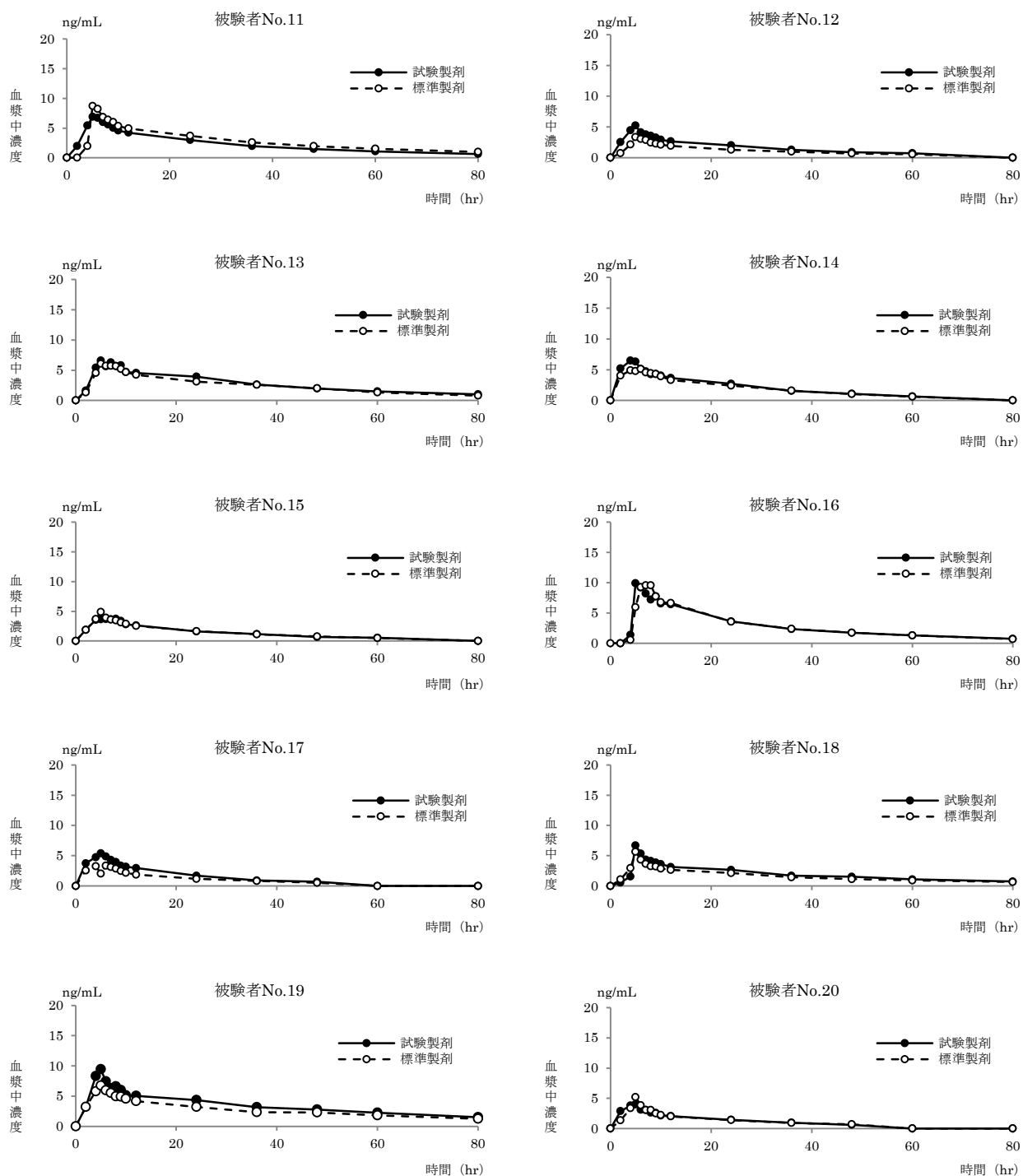


Table 3 セルトラリン錠 25mg 「TCK」と標準製剤の AUC<sub>t</sub>、C<sub>max</sub>、T<sub>max</sub>および T<sub>1/2</sub>

薬剤名	AUC <sub>t</sub> (ng·hr/mL)	C <sub>max</sub> (ng/mL)	T <sub>max</sub> (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
セルトラリン錠 25mg 「TCK」	181.94 ± 79.76	7.56 ± 2.89	5.2 ± 0.8	26.2 ± 7.3
標準製剤 (錠剤、25mg)	178.82 ± 89.24	7.44 ± 3.45	5.4 ± 0.8	27.5 ± 6.7

(平均値 ± S.D., n = 20)

Table 4 分散分析の結果

パラメータ	変動要因	自由度	平方和	平均平方	分散比	p 値
AUC <sub>t</sub>	被験者間変動					
	群又は持込	1	0.9048	0.9048	2.2841	0.1481
	被験者/群	18	7.1304	0.3961	28.1419	0.0000
	被験者内変動					
	薬剤	1	0.0229	0.0229	1.6240	0.2187
	時期	1	0.0494	0.0494	3.5106	0.0773
	残差	18	0.2534	0.0141		
C <sub>max</sub>	被験者間変動					
	群又は持込	1	1.1206	1.1206	4.3750	0.0509
	被験者/群	18	4.6106	0.2561	6.5314	0.0001
	被験者内変動					
	薬剤	1	0.0266	0.0266	0.6782	0.4210
	時期	1	0.0222	0.0222	0.5651	0.4619
	残差	18	0.7059	0.0392		

Table 5 セルトラリン錠 25mg 「TCK」と標準剤の対数値の平均値の差の 90%信頼区間

項目	AUC <sub>t</sub>	C <sub>max</sub>
試験剤と標準剤の 対数値の平均値の差の 90%信頼区間	log(0.98)~log(1.12)	log(0.94)~log(1.17)

- 1) 後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について：別紙（平成 24 年 2 月 29 日 薬食審査発 0229 第 10 号）
- 2) 江島 昭 他：生物学的同等性の試験方法についての解説．医薬品研究 13：1106-1119, 1982
- 3) 江島 昭 他：生物学的同等性の試験方法についての解説—統計解析 その 2—．医薬品研究 13：1267-1271, 1982
- 4) 江島 昭 他：生物学的同等性の試験方法についての解説—統計解析 その 3—．医薬品研究 15：123-133, 1984